

日本微生物資源学会第23回大会報告

第23回大会長 矢口貴志

平成28年度の大会は、千葉大学真菌医学研究センター(IFM)が担当いたしました。会期は7月4日(月)～6日(水)の3日間、千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス内、写真1)で開催いたしました。梅雨時でしたが、幸い雨に降られることがなく、皆様の日頃の行いの賜物と思いました。大会参加者の内訳は、正会員(機関会員含む)57名、名誉会員1名、賛助会員4名、非会員(招待講演者含む)15名、学生6名の計83名でした。会場最寄り駅がJR西千葉駅と多少交通の便が悪いところにもかかわらず、多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

大会初日は、午後から編集委員会、カルチャーコレクション委員会および理事会を開催しました。大会2日目は実務ワークショップ、ポスター発表、微生物資源シンポジウム、総会、受賞講演および懇親会、大会3日目は一般講演(口頭発表)の後、系統分類部主催の基調講演と閉会式を行いました。

5日に行われた実務ワークショップでは、「カルチャーコレクションとコンプライアンス」と題して、小野里浩二氏(農林水産省横浜植物防疫所)、江崎孝行氏(岐阜大学微生物遺伝資源保存センター)、高島昌子氏(理研BRC-JCM)の3名に微生物株の寄託と品質向上に関する取り組みや問題点について解説いただきました。ポスター発表は23題の申し込みがあり、細菌から菌類、藻類まで幅広い生物群の系統分類、生態などに関する研究報告と各保存機関の事業報告につ

いて、活発な意見交換が行われました(写真2)。今回も前大会と同様に、演題番号の奇数と偶数で分けて討論時間をずらして行いました。午後からの微生物資源シンポジウムは「病原微生物のリソースとしての有効活用」と題して、これまで収集してきた病原微生物がリソースとしてどのように有効活用されているか、応用研究の実例を知花博治氏、楠屋陽子氏(ともに千葉大学真菌医学研究センター)、飯田哲也氏(大阪大学微生物病研究所)、平山謙二氏(長崎大学熱帯医学研究所)の4名の先生にご紹介いただきました。また、高島昌子氏(理研BRC-JCM)が「酵母の多様性および分類学的研究とそれに基づくゲノム情報の整備」の研究題目で学会賞を、伴さやか氏(独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター)が「昆虫病原性糸状菌 Ophiocordycepsitaceae の分類学的再編」の研究題目で奨励賞を受賞され、それぞれ受賞講演をされました(写真3, 4)。懇親会は64名のご参加をいただき、矢口大会長、江崎学会長の挨拶に続き、千葉大学真菌医学研究センター 米山光俊教授(笹川センター長代理)に歓迎のご挨拶をいただきました。懇親会では優秀ポスター賞として、山口晴代氏(国立環境研究所)らの「霞ヶ浦における *Microcystis aeruginosa* の *ftsZ* 遺伝子を用いた種内系統群の動態解析」が選ばれ、その表彰が行われました(写真5)。

6日は8題の一般講演(口頭発表)にて、ポスター発表同様に細菌から菌類、藻類まで幅広い生物群の系



写真1 千葉大学けやき会館

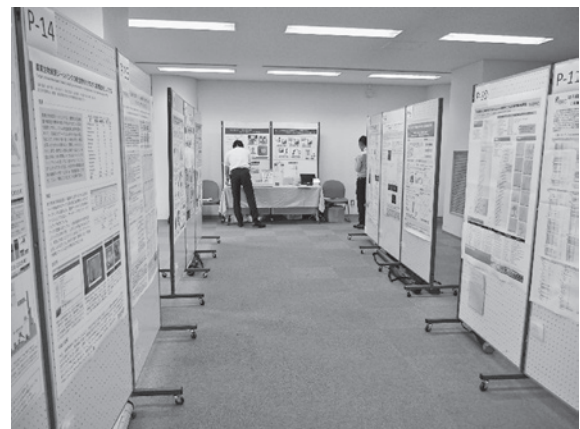


写真2 ポスター会場



写真3 学会賞受賞 高島昌子氏



写真4 奨励賞受賞 伴 さやか氏



写真5 優秀ポスター賞受賞 山口晴代氏



写真6 系統分類部会主催基調講演 天知誠吾氏



写真7 ベストプレゼンテーション賞受賞 浜田盛之氏

系統分類、生態などに関する研究報告がされました。系統分類部会主催基調講演では、「ヨウ素代謝微生物：その生理と微生物資源としての活用」と題して天知誠吾氏(千葉大学大学院園芸学研究所応用生命化学領域)に大変興味深いご講演をいただき、大会長より感謝状と記念品を進呈しました(写真6)。ベストプレゼンテーション賞として、浜田盛之氏(独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター)らの「*Corynebacterineae* 亜目に属する2属の分類学的再検討」が選ばれ、閉会式において表彰されました(写真7)。

今回の大会では、企業展示2社、大会協賛3社のご支援をいただき、財政的に大会運営をスムーズに行うことができました。心より感謝申し上げます。最後になりますが、小人数の大会スタッフで、不慣れなこともあり、何かと行き届かない点もあったかと存じます。多くの方のご支援、ご協力で大会を無事終えることができました。ここに厚く御礼申し上げます。